



臨床研修医の自己効力感が研修到達度、仕事・生活・研修満足度、および気分の状態へ与える影響の検討

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-01-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 増山, 由紀子 メールアドレス: 所属:
URL	https://fmu.repo.nii.ac.jp/records/2000229

論文内容要旨

しめい 氏名	ましやま ゆきこ 増山 由紀子
学位論文題名	臨床研修医の自己効力感が研修到達度、仕事・生活・研修満足度、および気分の状態へ与える影響の検討

【背景】

自己効力感とは、ある結果を生み出すために必要な行動をどの程度うまく行うことができるかという個人の確信を概念化したものである。日常の行動に影響する一般性自己効力感（General Self-efficacy, GSE）と特定の行動に影響する課題特異的自己効力感（Task-Specific Self-efficacy）がある。GSEが高いとストレスに対して強くなること、GSEが仕事満足度やパフォーマンス、人生満足度、キャリア形成にも関連していることが報告されている。本研究では初期臨床研修医のGSEの状態について調査し、GSEと研修の到達度、仕事・生活・研修の満足度、および気分の状態との関連について検討した。

【方法】

研究1. 対象は初期臨床研修医140名である。GSEは一般性セルフ・エフィカシー尺度（General Self-efficacy Scale, GSES）を使用し、研修の到達度や仕事・生活・研修の満足度との関係について検討した。

研究2. 対象は初期臨床研修医30名である。気分の状態は、日本版SDS（Self-rating Depression Scale）と日本語版POMSTM短縮版（Profile of Mood States—Brief Japanese Version, POMSb）を用いて調査し、GSEや研修到達度との関連について検討した。

【結果】

研究1. GSES得点は一般学生より有意に高く、一般成人より有意に低かった。GSEが「非常に低い」または「低い傾向にある」と分類された研修医は、61名（50.8%）と約半数を占めていた。GSE標準化得点で表されるGSEと研修到達度で表される「課題特異的自己効力感」や仕事、生活、あるいは研修の満足度とは、弱い相関関係を認めた。

研究2. SDSで抑うつ、あるいは抑うつ傾向があると判定された研修医、あるいはPOMSbで何らかの「健常」以外の気分の状態を認めていた研修医は、調査した研修医の約半数を占めていた。そして、GSES標準化得点は、SDSやPOMSbの6つの下位尺度のいずれとも、強い相関関係を認めた。同様に、研修到達度もPOMSbの下位尺度4項目と強い相関関係を認めた。

【考察】

本研究の結果から、GSEが高い研修医の方が研修の到達度や満足度が高いこと、GSEが低いと抑うつ傾向が高く、緊張や怒り混乱などの気分の状態が悪いことが明らかになった。また、GSEが低い研修医が約半数おり、GSEが低い研修医に対しては何らかのメンタルヘルスのサポートが必要と考えられた。GSEを高める介入によって、研修の到達度や満足度、気分の状態が変化するかについては、さらなる調査が必要である。

学位論文審査結果報告書

平成 30 年 1 月 29 日

大学院医学研究課長様

下記の通り学位論文の審査を終了したので報告致します。

【審査結果要旨】

氏 名 増山 由紀子

学位論文題名 「臨床研修医の自己効力感が研修到達度、仕事・生活・研修満足度、および気分の状態へ与える影響の検討」

本研究は、我が国の研修制度において研修到達度を向上させる方略の確立と研修医の抑うつ状態回避が課題となっていることを背景に、平成 24 年 3 月に福島県内に勤務していた研修医の一般性自己効力感（GSE）尺度の得点分布と属性による違いを解析し、GSE が研修到達度の自己評価、仕事・生活・研修満足度、及び気分に与える影響を検討したものである。我が国の研修医を対象にした GSE の報告はなく、新たな試みといえる。論文記述とデータ解析/表示の修正を重ねた結果、GSE 尺度（GSES）の構成因子の一つが男女間のみならず研修病院によって異なること、GSES 総得点が研修到達度自己評価に影響を与えること、しかし研修到達度のカテゴリによっては GSES と関連しないものもあること等、新たな知見を示すに至った。SDS と POMSb で測定した気分の状態と GSES 総得点は予想通り正の相関を示したが、GSE の構成因子によって相関する POMSb 下位尺度が異なることも示された。著者が提起する「GSE を高める介入が、研修到達度とメンタルヘルスを改善させるかどうか」の判断材料としては、自己評価ではなく客観的な研修到達度評価が必要である点、特に気分の状態と GSE に関しては解析標本数が少ない点、GSES とその他の指標がほぼ同時に一度だけ測定されている点で限界がある。しかしながら、GSE というユニークな尺度で我が国の研修医の研修自己評価と気分の状態を解析し、いくつかの新たな知見を示した点に意義が認められ、学位論文に値する。

論文審査委員	主査	医療人育成・支援センター	亀岡 弥生
	副査	総合科学教育センター	後藤 あや
	副査	神経精神医学講座	矢部 博興